

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第4回:米韓会談:双方の得るところ

2021年6月10日配信

【ポイント】

5月21日に行われた米韓首脳会談は、双方「得るところ」のある重要な会談。
今後に影響のある諸合意もあり、要フォロー。

【本文】

■ バイデン政権の優先事項は、これまでの諸会談の順番・流れから明白

- ・国務・国防長官初外遊:東京⇒ソウル⇒アラスカで中国のカウンターパートと
＝同盟国と調整した上で、最大のチャレンジである中国にあたる
- ・最初のワシントンでの首脳会談を菅総理と⇒そして文在寅大統領と⇒米中接触への布石
- ・対口も同様(6/11～13 G7⇒6/14 NATO首脳会談⇒6/16 米口首脳会談@ジュネーブ)

■ 米韓首脳会談の最優先事項

- ・米国:韓国を対中国共同戦線の一員に引き込むこと
＝過去の言動から見て、文在寅を信頼していない。文字で明確に示す必要
- ・韓国:対北朝鮮対話路線を死守すること
＝これが文在寅大統領の一貫した最優先事項。任期1年を切ってできることに限り

■ 米国が得たもの

- ・台湾海峡への言及(但し、中国への名指しの懸念表明はせず≦日米)

■ 韓国が得たもの

- ・2018年板門店宣言・米朝首脳共同声明@シンガポールへの言及＝対話「継続」の入口
- ・「朝鮮半島の」非核化(「北朝鮮の」非核化(日米)でなく)＝北に売り
- ・但し、台湾への言及+ミサイル(下記)で中国との関係で失うものはそれなりに大。

■ 今後注目①; 射程800km以下に制限されてきた韓国ミサイル開発への制約を撤廃

- ・対米「自主」外交標榜の文在寅の売り⇔対中ではマイナス
- ・ソウル、北京の距離は950km＝中国へのメッセージ＝米国にもプラス
- ・日本にも理論的「影響」＝ソウル・東京1150km(ただ既にソウル・福岡550km)
- ・文大統領任期は後1年未満(選挙は2022年3月9日)⇒ポスト文で米韓同盟が「北朝鮮用」を超えて(日米同盟と同様に)台湾を含む「地域の安定のため同盟」に進化するか、要注目。

■ 今後注目②; 米韓原子力協力+東南アジアへの支援

- ・文在寅にとっては、「南方政策」の具現化+ビジネス
- ・米国にとっては、東南アジアとの関係での対中牽制
- ・どれだけ現実化するか次第では、日本にとってもビジネス+影響力の競争に

【番外】「演出」では、韓国に軍配

- ・米側ガイドライン改定でマスク不要になったのはラッキー(政治的背景無し)
- ・ただ、問題は「内容」。信頼度で両国に大差+韓米関係改善と韓国の対中対峙フロント入りは日本にプラス。笑って甘受。

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先:りそな総合研究所 アジア室 石橋

メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp